



工業会

The Japanese Association For Non-Destructive Testing Industry (JANDT)

発行元 一般社団法人日本非破壊検査工業会
 〒101-0047
 東京都千代田区内神田2丁目8番1号 富高ビル3F
 電話 03-5207-5960 FAX 03-5207-5961
 URL : <https://www.jandt.or.jp/>
 編集 : 広報部会

第19回 日本非破壊検査工業会 技術討論会を開催

技術部会（安田裕之部会長）は、8月30日に「第19回技術討論会」を「非破壊検査業界におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）の推進と今後の展望」をテーマとして建設交流館グリーンホールで開催した。今年度は7年ぶりとなる大阪開催であり、関西支部が総力を挙げ全力で取り組んできた。過去3年間はコロナ禍の影響で中止やオンライン開催また、懇親会の見合わせが続いており、今回こそはという関係者全員の意気込みにより4年ぶりとなる通常開催が実現した。

会場には延べ116名が集い、コロナ前には及ばないものの多数の参加者により盛況な技術討論会となった。ロビーには展示コーナーも設けられポニー工業、富士フィルム、リガク、日本ベーカーヒューズの4社による最新のデジタル検査機器の展示も並行して行われた。

討論会は川崎博義（T.I.S.）実行委員長の開会宣言の後、長岡康之理事長より挨拶があり、その後、佐藤孝二（グローバル検査）総合司会のもと、基調講演2件、特別講演1件、一般講演3件、そしてパネルディスカッションへと続いた。午前の部は、ルイザ伯子ノ瀬（日本工業試験所）座長が進行役を務めた。基調講演は、日本非破壊検査協会大岡紀一顧問より「デジタルラジオグラフィに関する規格及びその適用について」と題して、続いて島根大学三原毅教授より「検査のデジタル評価技術に向けた音響映像化技術」と題して、講演をいただいた。

午後の部は、沖原禎夫（川重サポート）座長が進行役を務めた。特別講演として東芝エネルギーシステムズ落合誠統括技師長より「第4世代非破壊評価（NDE4.0）の概念と発電プラントO&Mへの適用」と題して講演をいただいた。引き続き一般講演として東洋検査工業原澤隆之課長より「フェーズドアレイ探傷検査の適用事例」と題して、続いてIHI検査計測田北雅彦次長より「デジタルRT規格適用への取組と適用事例」と題して、さらに三菱重工パワー検査八木尚人技監より「フェーズドアレイUT等先進技術の海外での規格化の状況」と題して、講演をいただいた。

パネルディスカッションでは、八木尚人コーディネーターのもと、5名の講演者にパネラーとしてご登壇いただき、非破壊検査業界のデジタル化技術の普及推進、



パネルディスカッションのよう

懇親会のよう

AIの適用の実現性、さらにはNDE4.0への展望について活発な討論と意見交換がなされた。最後に、安田裕之（ジャスコ）技術部会長より閉会宣言として、関係各位への謝辞とともに有意義な技術討論会であった旨が述べられ、第19回技術討論会は無事に閉会した。

閉会後は会場を移し4年ぶりとなる懇親会が催された。河野孝司（ダンテック）司会により富田裕樹関西支部長の挨拶、埴晴行専務理事の乾杯で幕が開いた。参加者は77名にもおよび、久しぶりの懇親会であることからデジタル技術に関する話題に大いに花が咲いた。中村英之開発委員長の次回開催についての案内の後、最後は的場正文関西副支部長の中締めをもって幕を閉じた。



川崎博義実行委員長



長岡康之理事長



大岡紀一顧問



三原毅教授



落合誠統括技師長



原澤隆之課長



田北雅彦次長



八木尚人技監



安田裕之技術部会長



佐藤孝二総合司会

第11回 非破壊評価総合展 開催

7月26日～28日の3日間「第11回非破壊評価総合展」が猛暑の中、4年ぶりに東京ビッグサイトで開催された。プラントメンテナンスショー、インフラ検査・維持管理展、国際ドローン展などの同時開催展示会と共に「メンテナンス・レジリエンス TOKYO 2023」として、広報部会展示会委員会（相村英行委員長）は、日本能率協会との共同主催で開催した。

今回の「検査とメンテナンスの情報交流プラザ」では、「非破壊検査の社会貢献『インフラから文化財まで』」をテーマとした展示やセミナーを行った。初めての企画となる文化財の非破壊調査に関連した展示では、文化財の非破壊調査について会員企業の実績や用いられる検査手法の紹介、特別展示として兵庫・加古川の名刹「鶴林寺」の国宝太子堂の煤けた壁画の復元過程について、奈良の世界遺産「元興寺」研究所からは最近の復元・保存処理した遺跡や文化財についてパネル展示された。また、実際の装置を使用した検査のデモンストレーション展示を4企画、技術セミナーを6講演を企画し、産学官からそれぞれの立場での講演を、文化財については特別展示の「鶴林寺」塔頭ご住職、元興寺文化財研究所研究員の方に講演いただき、いずれも興味深いお話を聞くことができた。

期間中は連日の35℃を超える猛暑日となったが、5類移行後のリアル展示会とあつて総来場者数40,000名強となり、コロナ禍前の2019年開催（東京ビッグサイト）の45,000名に並ぶ上々の賑わいであった。技術セミナーの聴講もほぼ満員となり、検査デモンストレーションや各検査手法のパネル展示も多く来場者の関心を引くなど非常に好評であった。特に、今回は例年になく女性来場者が多く見られ、隣接会場の「空飛ぶクルマ」の実物展示だけでなく、案内状にもあった、美しい彩色の「釈迦涅槃図」復元図が功を奏したのかもしれない。

今回の展示会では、非破壊検査技術を用いた文化財の調査について、来場者に素材や製品、構造物、インフラなどの検査だけではなく、非破壊検査の隠れた社会貢献の一面も知ってもらうことで、今まで以上に非破壊検査に関心を持つ人が増加したのではないかと考えられた。



検査とメンテナンスの情報交流プラザ



技術セミナーの模様



特別展示:涅槃図釈尊(復元模写)

非破壊評価技術セミナー	7/26 ①	「道路インフラの維持管理に関する最近の話題」	国土交通省 関東地方整備局 道路部 道路保全企画官 粕谷 日出夫
		「赤外線・ドローンを用いた太陽光発電設備の最新の検査技術」	エネテック 関東支店 野口 貴司
7/27 ②		「鋼橋の簡易な疲労対策技術と疲労損傷検知モニタリング」	関西大学 環境都市工学部都市システム工学科 構造工学研究室 教授 石川 敏之
		「矢本横穴出土革帯の分析」	元興寺文化財研究所 保存科学研究室 山口 繁生
7/28 ③		「非破壊検査技術を用いた文化財の復元 ～鶴林寺太子堂壁画を例に～」	天台宗鶴林寺塔頭真光院住職 叡山学院 教授 吉田 実盛
		「建築物外壁の断熱性評価」	建材試験センター 中央試験所 環境グループ 萩原 伸治

検査デモ	エビデント	超音波フェーズドアレイの最新機能を用いた溶接部検査の効率化
	菱電湘南エレクトロニクス	超音波探傷器を用いたリモートでの状態監視
	トラスト	試験困難な場所でのアンカーボルト引張荷重確認試験
	東京理化学検査	試験体表面の非破壊試験計測、外観検査 (VT)

IICは、正確な検査・計測サービスであらゆる分野に貢献します。

航空宇宙 環境 発電
自動車 食品 ヘルスマニタリング

IHI Realize your dreams

株式会社 IHI 検査計測 営業統括部
〒140-0013 東京都品川区南大井6-25-3
TEL:03-6404-6033 FAX:03-6404-6044
www.iic-hq.co.jp

K 経験豊富な実績
E 笑顔で、業務に取り組みます
I いつでもどこでもあらゆるニーズにお応えします

放射線透過試験/超音波探傷試験/磁粉探傷試験/浸透探傷試験
過流探傷試験/漏れ探傷試験/レーダー探査/気密・耐圧試験

KET 京浜検査工業株式会社

原子力規制委員会使用許可・CIW認定業者

本社：横浜市金沢区福浦2-6-10
TEL：045-701-2072 FAX：045-784-4100
山形営業所：山形県南陽市若狭郷屋253-2
TEL：0238-43-8100 FAX：0238-43-8108

関西支部 令和5年度 9月例会兼経営交流会を開催

9月7日、関西支部の9月例会兼経営交流会が出席者44名のもとエル・おおさか（大阪府立労働センター）において開催された。

冒頭に富田裕樹支部長は出席者への謝辞の後「技術討論会でも取り上げた、DXやAI技術の発展は目覚ましく、今後なくなる仕事を取り沙汰されている一方で、我々の非破壊検査業務は無くならないものと実感している。しかしながら人材不足は益々進み、その中での求人活動において、求人内容に昔は好まれたファミリー的な会社などが、今の若い人には逆に敬遠されている。本部中心に広報活動が活発に行われている、関西支部も年明けに賀詞交歓会を予定するなど、支部行事への積極的な参加をお願いします。」と挨拶した。

9月例会では、本部及び各支部の活動実績等が報告され、経営交流会では、特別講演として衣目公認会計士・税理士事務所の衣目成雄先生より「電子帳簿保存法について」の講演が行われた。電子帳簿等保存、スキャナ保存、電子取引毎の説明や緩和措置について具体的な例示など1時間の有意義な講演が行われた。



9月例会のもよう

検査機器の紹介では、中性子線ラジオグラフィ受託撮影サービスがポニー工業より新たな技術として紹介された。撮影写真やCT画像及び動画を交えながら、X線ラジオグラフィと違う鮮明な撮影などの説明があった。

その後、会場を移して、5類移行に伴う制限のない懇親会が開催され、お互いの表情が見れる中、会員各社の情報交換・歓談が和やかな雰囲気の中で行われた。



富田裕樹
関西支部長



衣目成雄
公認会計士・税理士

西日本支部 令和5年度 秋季例会・経営交流会を開催

西日本支部は、9月7日ANAクラウンプラザホテル広島において、出席者30名のもと秋季例会及び経営交流会を開催した。冒頭、清水重之支部長は、会員企業の皆様に対して、平素より西日本支部事業活動においてのご支援とご協力の謝辞を述べ、先月25日に小倉にて「財務副大臣 秋野公造氏を囲む会」に、西日本支部から7名の参加にて有意義な意見交換の報告があった。また、当工業会をますます魅力的な団体とすべく、新たな会員サービス「工業会119」の運用開始と取り組みについて説明した。引き続き、令和5年度前期 西日本支部活動報告に始まり、各委員会（広報・技術・安全・教育）報告があり、最後に本部関連報告がなされた。

経営交流会では、「電子帳簿保存法について」と題し、広島総合法律会計事務所 公認会計士・税理士 河野隆氏より、制度の概要と留意点等の解説が行われた。

会場を移しての懇親会には40名が参加した。清水支部長の開会挨拶に続き、斉藤鉄夫国土交通大臣からは、自己紹介と

当工業会との繋がりや議員懇話会とインフラ調査士の設立などを交えながら「今ある社会資本の有効活用に関わるインフラの健全性を、非破壊検査等で調査するなど様々な制度を創っているところである。」と挨拶された。続いて碓氷芳雄広島市議会議員より挨拶を頂き、松村康人顧問の乾杯の音頭で懇親会が開宴した。来賓及び会員同士の名刺交換や活発な情報交換と親睦の輪が広がり、宴たけなわのところ野口博文副支部長の一本締めで散会となった。



清水重之
西日本支部長



斉藤鉄夫
国土交通大臣



河野隆
公認会計士・税理士



懇親会のもよう

ETによる溶接線検査のデジタル化の推進と今後の展望

消防庁の管轄である特定屋外タンク貯蔵所のタンク底部溶接部を対象として、渦電流探傷法 (ET) によるコーティング上からの溶接線検査の適用に向けた調査研究を、危険物保安技術協会からの受託事業として実施している。以下に、背景、概要および今後の展望について報告する。

1. 背景

特定屋外タンク貯蔵所は、消防法第14条の3の2の規定に基づく危険物の規制に関する規則第62条の5に規定される内部点検を実施する際、タンク底部の板の厚さ及び溶接部が危険物の規制に関する政令に定められた技術上の基準に適合していることを確認することとしている。タンク底部の溶接部については、タンク底部にコーティングが施工されている場合は、コーティングを剥離し、規則第20条の8に規定される磁粉探傷試験 (浸透探傷試験を含む。) にて確認した後、コーティングを復旧する。(図1 (a) 参照)

この現状に対して、スマート保安や非破壊検査のデジタル化推進の観点から、図1 (b) の点検フローを確立することを目的にして、コーティングの上からの渦電流探傷試験が技術上の基準に適合していることを実証するための調査研究を実施している。

2. 概要

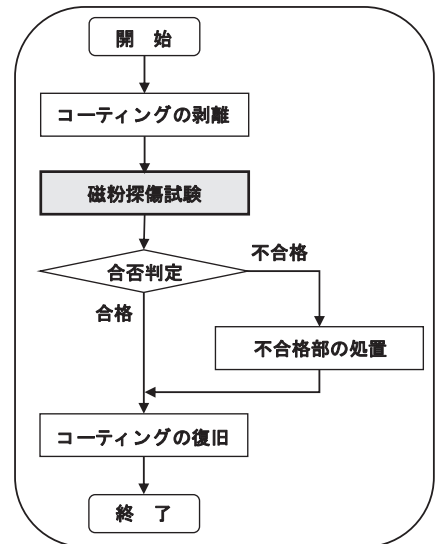
タンク底部溶接部の対象は、以下の4種類となる。

- アニュラ板×アニュラ板 (高張力鋼) 裏当て材を用いた突合せ溶接
- 側板×アニュラ板 (高張力鋼) 部分溶込みグループ溶接
- 底板×底板 (9mmを超える) (軟鋼) 裏当て材を用いた突合せ溶接
- 底板×底板 (9mm以下) (軟鋼) すみ肉溶接

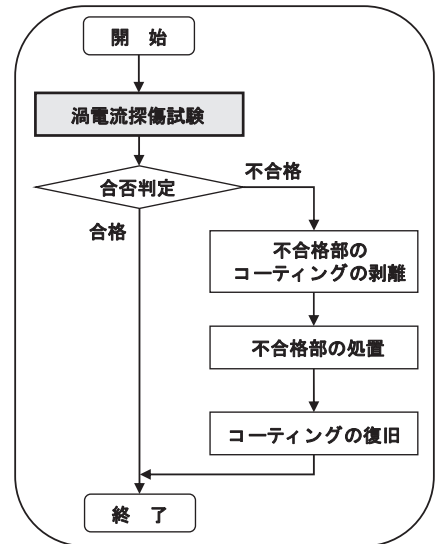
調査研究での検出目標のきずの寸法は、長さ4mm×深さ1.5mmとしている。また、平板に付与したスリットおよび溶接部近傍に付与したスリットあるいは自然きずを対象とし、ETによる検出性を確認することとしている。

3. 令和4年度の主な成果

渦電流探傷装置は、幾つかのタイプのものが市場にあることに鑑み、目的を達成するための装置開発ではなく、市販されている装置を用いることとした。また、会員に広く協力を求め、賛同が得られた会員企業によりETWG (小坂大吾主査、職業能力開発総合大学校 准教授) を設置し、試験片を各社に回送して実施する回送試験の形式で試験を進めた。なお、令和4年度は、コーティングの上から、検出目標とするきずのETによる検出の可能性の確認を行うことを目的にした。



(a) 内部点検の現状



(b) 新しい内部点検の検討(案)

図1 タンク底部溶接部の点検フロー

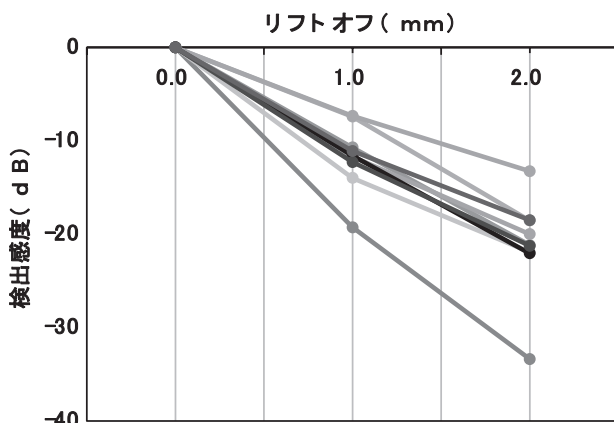


図2 リフトオフ特性

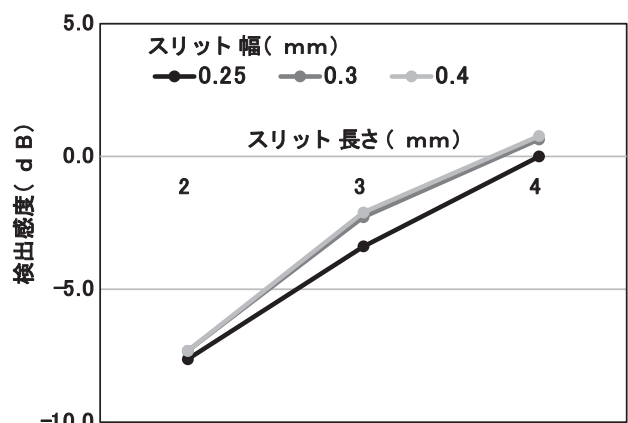


図3 スリット長さ検出感度

(1) リフトオフ特性

コーティング上から渦電流探傷試験を行う場合、リフトオフによる検出感度低下が課題となる。コーティングの厚さを最大2mmと想定し、各社で試験を実施した結果、図2に示すように、2mmのコーティングがあると10dB～20dB程度の感度が低下する。この感度低下の程度は、使用する探傷装置やプローブ（コイル）の仕様等によって異なるので、適用するにあたっては、予めリフトオフ特性を把握しておくことが重要になる。

(2) スリット長さの影響

検出目標である長さ4mm×深さ1.5mmのスリットに対して、長さが短いスリットの検出性を確認した。また、検出目標のスリット幅を0.25mmとしているが、ETにおいてはスリットの幅も影響することを考慮し、スリット幅をパラメータとして検出性を確認した。

その結果、スリット長さが2mmの場合、検出目標とする長さ4mmのスリットに比べて8dB程度、検出感度が低下する。また、スリット幅は0.25mm～0.4mmの範囲では感度差が1dB程度であることがわかった。（図3参照）

(3) 溶接部の自然きずの検出性

溶接部における渦電流探傷試験の検出性を確認するために、縦割れや横割れを付与した試験体を10体準備した。コーティングが無い場合には、図4に示すように、No.1～No.10の全ての溶接きずを検出することができた。ただし、使用した装置とプローブの組み合わせによって検出感度に幅があり、事前に検出性を確認しておくことが必要である。また、コーティングがある場合には感度の低下があるので、探傷感度の設定の際に考慮することが必要である。

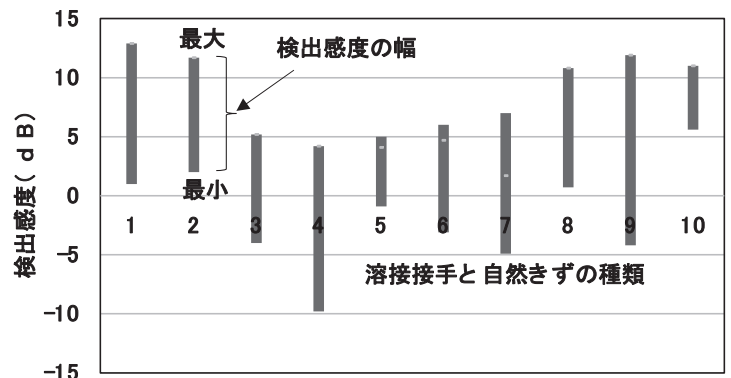


図4 自然きずの検出性

(4) 長さのサイジング

規則第20条の8に規定されている合否基準は長さ4mm 深さ×1.5mmであり、具体的な検査方法を検討するためのひとつの考え方として、渦電流探傷試験によるきず長さのサイジングがある。出力の最大値の-6dBを長さとするスリット応答領域とスリット長さの関係を図5に示す。コーティングが無い場合は、比較的良好な関係がある。一方、コーティングがある場合は、過大評価する傾向があり、令和5年度も継続して検討をする。

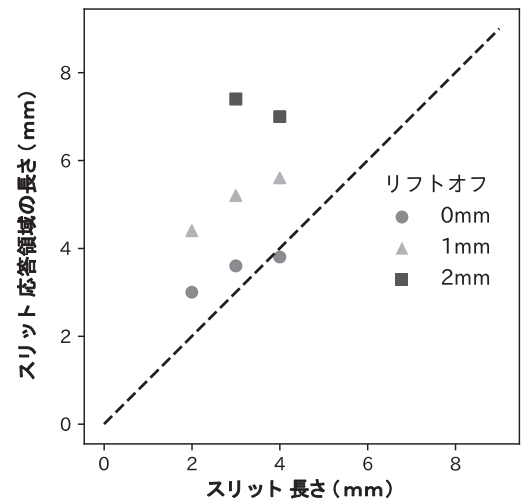


図5 スリット長さと同答領域の長さ

4. 今後の展望

令和4年度は、渦電流探傷試験による溶接部のきずの基本的な検出性を確認する試験を実施した。令和5年度は、さらに溶接余盛の形状等をパラメータにして試験を継続するとともに、実機における検出性確認試験を令和6年度で計画している。

今回の成果が上々であれば、近い将来、特定屋外タンク貯蔵所のタンク底部溶接部の検査は、磁粉探傷試験ではなく、コーティング上からの渦電流探傷試験で実施できることになり、非破壊検査のデジタル化が図られることになる。

本件に関する開発の成果は、当工業会や危険物保安技術協会のHP上で公開しており、今後の成果について期待している。

問合せ先：一般社団法人日本非破壊検査工業会 専務理事 埴 晴行

TEL：03-5207-5960 FAX：03-5207-5961 E-Mail：hanawa@jandt.or.jp HP：https://www.jandt.or.jp/

「NDI資格取得のための受験対策セミナー」を開催

東日本支部及び関西支部の教育委員会は、JSNDI秋期一次試験対策の直前セミナーを「NDI資格取得のための受験対策セミナー」と題し、レベル2受験者を対象に、RT、UT、MT、PTの4科目について以下の日程で開催した。経験豊富なベテラン講師陣による、出題傾向の的確な把握、厳選された演習問題のポイント解説や質疑応答など、課題克服に向けたきめ細やかな指導のもとで理解がより深まることから、当セミナー受講者の合格率は非常に高く推移している。試験本番への総仕上げとして、受講者はNDIレベル2技術者としての必要な知識の習得に努めていた。



関西支部セミナーの模様

主催	実施日	対象	受講者数
東日本支部	9月2日～3日	RT、UT、MT、PT	23名
関西支部	9月2日	RT、UT、MT・MY、PT	18名

エックス線安全取扱教育WGの活動報告

安全部会(猿渡保部会長)直下に設置されたエックス線安全取扱教育WGは、eラーニングによる「エックス線安全取扱講習会」の開講に向けて活動している。

厚生労働省告示第50号の「透過写真撮影業務特別教育」の規程に準拠し「ガンマ線照射装置の構造及び取扱いの方法(90分)」を除く各科目の講義を行う。日本アイソトープ協会や山九メンテナンスセンターの協力のもとエックス線発生装置や放射線測定器の操作手順及び立入禁止区域や管理区域の設定方法などの実演動画をふんだんに盛り込み、受講生にも分かりやすい内容とする予定である。また、理化学研究所や日本保健物理学会等の協力のもと、講義毎に専門の講師陣を配置することで、エックス線透過写真撮影業務に従事するための知識を網羅し、各講義の最後の設けた理解度チェックで重要項目を反復して学習が出来る構成とし、来年3月開講に向けて準備中である。

「エックス線安全取扱教育」講習会(案)[敬称略]

1.関係法令(60分)

理化学研究所 和光事業所 本部 安全管理室
杉山和幸(元 原子力規制庁)

2.電離放射線の生体に与える影響(30分)

日本保健物理学会
「エックス線被ばく事故検討WG」委員
小嶋光明

3.エックス線装置の構造及び取扱いの方法 90分(内30分は実演動画)

日本非破壊検査工業会
松嶋美乃(トーレック)

4.透過写真の撮影の作業方法 90分(内30分は実演動画)

日本非破壊検査工業会
馬上宏之(ジャスコ)

※各講義毎に理解度チェックを行う。講義内容を理解した受講者は、次の講義に進むことができる。

アンカー工事
スタッド工事
ハツリ工事
耐震補強

引張試験
鉄筋検査
レントゲン

ダイヤモンド販売
コアビット
ハンドカッター販売
カップサンダー販売
道路用ブレード販売

社団法人日本建設あと施工アンカー協会加盟
中央総業株式会社

神奈川県相模原市南区相模大野3-20-1 中央総業ビル4F
TEL: 0120-07-1222 FAX: 0120-07-5585

安全で安心な
生活環境を
目指して
非破壊検査と焼鈍工事の

ユキビルド 株式会社

〒210-0808 川崎市川崎区旭町 1-9-10
TEL:044-222-3222 FAX:044-201-6532

お客様と社員に信頼される
企業でありつづける

溶接検査株式会社

本社：〒985-0874
宮城県多賀城市八幡2-16-10
TEL：022-365-6040
FAX：022-366-3556
URL：http://yosetsukensa.com
出張所：青森・山形・秋田

CIW認定 A種 想像から創造へ 今感動の技術
労働者派遣事業許可
ISO9001 認証 JMAQA-1749

株式会社ダンテック

■ 非破壊試験検査全般 ■ 建築・土木構造物調査診断
■ 各種プラント保守点検 ■ 各種設備・配管劣化調査
■ 品質管理 ■ 破壊試験・化学分析等材料試験

本社 〒530-0043 大阪市北区天満4丁目14番13号
TEL.06(6354)3641 FAX.06(6354)2707

労働大学校「非破壊検査実習」への協力

技術部会（安田裕之部会長）は、労働政策研究・研修機構が運営する労働大学校からの依頼に基づき、9月7～8日の両日、労働行政の中核を担う行政職員向けの「検査業務専門Ⅱ（非破壊検査講義及び実習）」に協力した。4年ぶりとなる対面研修には、全国の労働基準監督署等から41名の研修生が労働大学校（埼玉県朝霞市）に集合し、当工業会は、検査種目毎に入念なる準備とベテランの講師陣を配置し研修に臨んだ。研修中は、熱心な聴講と質疑応答があり、研修生の拍手の下に無事に終了した。



講義のもよう



実習のもよう

日程	研修項目	講師
9月7日(木)	講義	前川 真一
9月8日(金)	超音波探傷試験	辻 哲平、前川 真一
	放射線透過試験	芥川 秀樹
	浸透探傷試験	馬上 宏之
	磁気探傷試験	弓野 拓也

西日本支部「財務副大臣秋野公造氏を囲む政策要望懇談会」を開催

8月25日(金) 西日本支部（清水重之支部長）は、JR九州ステーションホテル小倉にて、公明党非破壊検査技術振興議員懇話会の会長を務める財務副大臣の秋野公造参議院議員を囲んで、政策要望懇談会を開催した。日頃よりご支援いただいているインフラ調査士や配筋探査技術者の活用並びに、道路インフラ施設の新規・補修補強工事における非破壊検査の必要性や重要性に関する政策要望を行った。

また、非破壊検査業界が抱える、非破壊検査業の市場規模拡大や企業業績及び企業価値の向上、働き方改革や生産性向上などのさまざまな課題への取り組みが求められている現状を踏まえ、忌憚のない意見交換が出来る懇談会を開催した。懇談会には、西日本支部からは7名の有志が参加し有意義な意見交換がなされた。

試験機校正受託サービス

5 営業日

※最短納期

※対応機種は順次拡大中!
DPG100・APCシリーズ・TRシリーズは業界最短期で校正いたします!
※2023年当社調べ

QUICK 校正ラボ

測定機器を短期で校正

自動見積りフォームをご活用ください

校正ラボ

株式会社トラスト 大阪支店 〒567-0029 大阪府茨木市五日市緑町5番32号
TEL: 072-621-4172 919-cal.jp

安全を見つめています

CIW検査事業者認定 ○種
労働者派遣事業

アトミックス工業株式会社

営業種目: 非破壊検査全般
インスペクター・品質管理
各種監督業務・調査業務等

本社 〒731-0103 広島県広島市安佐南区緑井1-28-45
TEL 082-870-3131 FAX 082-870-3210
URL <http://www.atm-kogyo.co.jp/>
E-mail honsya@atm-kogyo.co.jp

福山営業所 〒721-0963 広島県福山市南手城町3-17-17
TEL 084-928-4533 FAX 084-944-5005
E-mail fukuyama@atm-kogyo.co.jp

“診る”を究めて

人と技術を「安全」という強固な絆で結び、「安心」を提供します。

新日本非破壊検査株式会社

営業本部 〒803-8517 北九州市小倉北区井堀4丁目10番13号
TEL: 093-581-1234 FAX: 093-581-4567

東京営業部 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町16-19
aLATO 日本橋小伝馬町 3階
TEL: 03-6661-1307 FAX: 03-6661-1308
<https://www.shk.co.jp>

EVIDENT

腐食マッピングスキャナーの新モデル登場。
新 HydroFORM スキャナー

- 1台で2軸の腐食マッピング
- 手元LEDが操作をガイド
- 高いカップリング安定性

◀ 詳細はこちら

株式会社エビデント ☎ 0120-58-0414 (フリーダイヤル) www.EvidentScientific.com

7

第18回インフラ調査士講習会・資格認証試験 受験者情報

【二次試験結果】

8月3日(木)～4日(金)

会場：川崎市産業振興会館(川崎市幸区)

資格	橋梁(鋼橋)	橋梁(コンクリート)	トンネル	付帯施設
受験者数	73名	87名	88名	72名
合格者数	65名	72名	55名	53名

2023年度前期 第30回配筋探査技術者資格認証試験 受験者情報

7～8月に実施した前期配筋探査実技(二次)試験結果、資格認証者・合格率及び後期資格認証試験日程は次のとおりです。

配筋探査技術者(土木)実技試験結果						
	関東	関西	九州	受験者 合計	合格者	合格率
土木 (電磁波レーダ法)	84名	54名	24名	162名	116名	72%
土木 (電磁誘導法)	57名	49名	22名	128名	104名	81%
配筋探査技術者(建築)試験結果						
建築	66名	—	—	66名	65名	98%

2023年度後期 配筋探査技術者(土木)資格認証試験日程			
	関東 (学科：東京、 実技：川崎)	関西 (大阪)	九州 (北九州)
学科(一次)試験	11月29日	11月29日	11月29日
実技(二次)試験	2月26日 ～28日	2月13日 ～15日	1月31日 ～2月1日
2023年度後期 配筋探査技術者(建築)資格認証試験日程(試験会場：関東)			
建築学科講習・建築修了試験(eラーニング)	10月10日～10月31日		
建築実技講習・建築実技試験(同日開催)	11月21日～11月27日		

講習会開催情報

配筋探査実技講習会	[教育部会]	7月11日～28日	東日本・関西・西日本地区	受講者85名
NDI資格取得のための受験対策セミナー	[東日本支部]	9月2日～3日		受講者23名
NDIレベル2秋期一次試験対策セミナー	[関西支部]	9月2日		受講者18名

講師派遣情報

労働政策研究・研修機構 労働大学校「令和5年度検査業務専門Ⅱ研修」 9月7日～8日

会員動向 令和5年9月30日現在 197社(東日本支部78社、関西支部43社、西日本支部43社、機材支部33社)

入会 ■関西支部 日工検サービス株式会社 取締役 加藤明雄
〒550-0005 大阪府大阪市西区西本町 1-13-32 レイズ本町ビル6F
電話:06-6535-8250 FAX:06-6535-8251 E-mail:a.kato@nkkn-s.co.jp (令和5年7月1日付)

小型・軽量で大画面

ポータブル超音波探傷器
USFD-20

★UT実技試験 持込認定探傷器★

- 一般社団法人 日本非破壊検査協会
- 一般社団法人 鉄骨技術者教育センター

安心の2年間製品保証!
(最長5年までの延長契約あり)

寸法: 198×128×52 mm
重量: 0.84kg (バッテリー含む)

株式会社 KJTD

〒578-0912 大阪府東大阪市角田1丁目9番29号
大阪事業所 TEL (072)965-6231(代) FAX (072)962-6236
Email: usfdinfo@kjtd.co.jp URL: www.kjtd.co.jp

サンコウの測定器・検査機器

非接触膜厚計コートマスター FLEX

◆ウェット/乾燥状態の
コーティング層を非接触で
測定可能!

SANKO 株式会社サンコウ電子研究所
東京: 03-3254-5031 大阪: 06-6881-1230 仙台: 022-292-7030
名古屋: 052-915-2650 福岡: 092-282-6801
URL: https://www.sanko-denshi.co.jp

Pony

工業用LED高輝度シャカステン
PHC-V

LED対応透過温度計
DMP-V

・JIS Z 4561(1992)に対応しD35形を満足する観察器

・安心の国産LEDチップを採用

・コンパクト化を実現(当社比)

・耐擦傷性高透明アクリルを使用し、耐久性向上(当社比)

・小型・軽量

・従来の蛍光灯・LED光源にも対応(輝度約50,000cd/m²まで)

・1つのボタンでONとキャリブレーションが可能(オートOFF機能搭載)
※当社製シャカステンに対応しています。

お問合せ先
(大阪) 06-6262-6510
(東京) 03-5472-1091

ポニー工業株式会社
www.ponyindustry.co.jp

非破壊検査機器の販売・修理・校正・レンタル

工業X線発生装置 超音波探傷器 USM100 超音波厚さ計 DM5E

支える、の一番近くに。

RIKOH-S 理工サービス株式会社

〒733-0035 広島市西区南観音6丁目3番10号
TEL: (082)292-2552(代) FAX: (082)295-0566
E-mail: rikoh@rikoh-s.com URL: https://www.rikoh-s.com/